



第二中学校だより

新座市立第二中学校
新座市野火止 7-17-10

「明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心」

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

かわいい子には旅を

校長 伊藤 進

校庭の木々も色づき始め、少しずつ秋の深まりを感じる季節になってきました。日本人は、こうした季節の変化を感じとりながら、自然への優しさや思いやりの心を育んできました。10月27日の学校公開、昨日の合唱祭では、多数の保護者・地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。

合唱祭では、どの学級も一人一人の心に届くよう、全力で歌いました。これまで実行委員、パート



リーダー、指揮者、伴奏者を中心に取り組み、合唱祭のスローガン「史上最響の合唱を奏でよう」の下、学級の団結力がいっそう高まったと思います。合唱祭を迎えるまでには、各学級で多くのドラマがあったと思います。仲間とぶつかり合ったり練習がうまくいかなかったり、その一つひとつを解決するための努力が生徒を大きく成長させたと思います。11月は、二中フェスタ、教育相談（三者面談）、期末テストがあります。勉強・読書・スポーツにも良い時期です。心身ともに豊かな実りをはぐくめるようご家庭と連携して取り組んでいきます。

今から10年以上前になりますが、「女性の品格」を書いた板東真理子さんの文章にはっとさせられました。『日本の母親は召使いのように子どもに仕える』とアメリカの友人にびっくりされたことがあります。「アメリカの母親は召し使いのように子どもを使う」とも。「召し使い」という言葉

は適当でないかもしれませんが、日本の母親は子供のニーズを先回りして、あれこれと世話を焼き、子供の機嫌を損なわないように気を使い、自分のことは後まわしにします。子供の世話をして、子供に仕事をさせないことを、親の愛情表現と信じています。しかし、それは子供の家畜化、ペット化です。自分で食べ物を獲得せず、与えられたものを食べているペットや家畜は、たくましく自分で生活する力を失い、依存し、わがままになるといわれています。子どもを成長させるためには自分の力を発揮させる機会を与えなければなりません。』日本人とアメリカ人の子育ての違いがあれ、日本には、「かわいい子には旅を」という言葉があります。それは、自分の力で困難を乗り越えさせる力を育てることです。日々の身の回りのことを自分でやる、練習や集団活動で辛いことがあっても部活動を続ける、自分で決めた家庭学習をやり抜く、家事の手伝いをする。困難を乗り越える力は、そんな日々の生活の中で培われていきます。

本校の学校教育目標のひとつに「自主・自立」があります。先月には生徒会本部役員も選出され、生徒会活動も決意と覚悟を胸に歩み出しています。また、後期専門委員会も始まり、前期に負けない活動が展開されるものと期待しています。今後も学校は、生徒全員が協力し、生徒会活動を充実・発展させることで、生徒集団における人間関係をよりよく形成していきます。また、様々な活動の中で、人としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする粘り強い態度を育てていきます。